

「信用」という概念を通して経済の本質を理解させるには

大阪府立泉鳥取高等学校教諭
大塚 雅之

1. はじめに

ここ数年、中央教育審議会の答申をはじめ様々な場で、金融教育のより一層の重要性が強調されている。そこで述べられる金融教育の内容の多くは、マネープランの立て方、金融商品の選択の仕方など金融リテラシーに関するものである。確かに、私自身、金融機関に勤めていた経験からも、中等教育段階での金融に関する教育の必要性は重々認識している。

しかしながら、一方で「政治・経済」の学習指導要領において、金融に関する学習はマクロ経済の観点を中心に扱うことが規定されている。そこで、本稿では、「信用創造」を題材とし、①具体的な場面を生徒達に疑似体験させつつ、マクロの観点で金融の仕組みや働きを理解させる。②(より本質的な理解という意味で)「信用」という概念が、単に道徳的な意味だけでなく、人々がより豊かになるためにも重要であることに気付かせる。以上の2点を狙いとした1時間の授業展開を考えたい。

2. 導入「通貨とは」

導入の流れ：通貨の機能→通貨の定義

まず、信用創造を理解させる上で避けては通れないのが、通貨の定義である。通貨に対する曖昧なイメージを生徒たちは誰しも持っていると思うので、それを利用して、意外性や驚きから興味関心を引く。また、必ず導入の段階で、通貨に対する曖昧さを払拭しておく。発問1「もしも、この世の中にお金がないと、どのように不便だろうか？」センター試験にも用語として出題例はあるものの、ここでは単に、「価値尺度機能…など」と説明するのではなく、物々交換の不便などを生徒達にそれぞれ発表させる。「漁師はマグロで貯金しないといけない」などの発言を期待しながら、全ての機能の様々な具体例を出させる。その上で、発問2「このようなことができるのは現金だけ？」と聞き、「通貨＝現金＋預金」と板書で強調し、曖昧さを払拭する。その後、実際の一万円札(興味関心を引くうえで、本物がベター)を見せて、お金についてのクイズを行う。

お金についてのクイズ

- ① お札の本名は？
- ② 1万円札を1枚作るのにいくらかかる？
- ③ 世の中の現金と預金ってどれくらい？

答え：① 日本銀行券 ② 約16円

- ③ 現金通貨＝約79兆円
預金通貨＝約481兆円
準通貨＝約559兆円
譲渡性預金＝約32兆円(2013年5月)

ねらい：① 唯一の発券銀行がどこかの確認
② 信用について考えさせる
③ 現金が少ない点を強調

このクイズを通して、預金でのやり取り、つまり、金融機関の人間がパソコン上の数字を増やしたり、減らしたりするだけの操作で、世の中の取引の多くが行われてしまっていることを納得させる。

3. 展開1－金融とは

展開1の流れ：直接・間接金融→金利→銀行の機能

発問3「もしも、会社を作るなら最初の資金はどうする？」と聞き、中学校の公民分野の復習をかねて、間接金融と直接金融について扱う。株式という声も出てくるかもしれないが、この授業内では深くは取り上げないようにする。一方で、利子とはお金のレンタル料であることを理解させる。もしも、大事なものを人に貸すときに、相手によってレンタル料を決めることができるなら、自分ならどのようにレンタル料を設定するかを考えさせる。そして、金融とは、お金が余っている所から不足している所へ融通することだと伝え、お金を銀行に少なからず預けている生徒たち(家計部門)が全体として見た場合、余っている側だと理解させておく。次に、発問4「銀行員って何をしているのか？」と銀行の機能を理解させるための発問をする。ここでも、「仲介機能…など」と説明せずに、実際の銀行員の仕事を紹介する。

銀行員の仕事

- ① 一般の人の口座の管理をする
- ② お金を借りてくれそうな人を探して融資する
- ③ 結果的に世の中の通貨量を増やす

ここで、もしも余裕があるならば、1万円サイズの紙を100枚用意して、実際に目の前で銀行員のように数えてみると生徒たちが喜ぶ。動画サイトなどにもお札の数え方が掲載されているので、数日間練習すればできるようになる。また、なぜ銀行員は必ずきれいな制服やスーツを着ているのか、なぜ銀行は支店ごとに色を変えるなどの個性を出さず、同一のサービスを行うことを重視するのか？などの質問を行い、「信用」について考えさせる。

4. 展開2ー「信用創造」

展開2の流れ：信用創造のロールプレイ→信用収縮

発問5「銀行は世の中の通貨を増やすことができる。どのようにして増やしているか？」を考えさせる。ここからロールプレイを始める。役割は銀行員、日銀の社員、お金を借りたい人など。先ほどのお札の束や銀行口座と書かれた紙を事前に用意しておく。

ロールプレイ① 教科書での信用創造

Aさん：「100万円を銀行に預けます」→銀行員は100万円を受けとり、Aさんに預金口座100万円と書いた紙を渡す。
 日銀の社員：「一応、そのうちの10%を日銀へ預けなさい」→銀行員は10万円を日銀に渡す。
 銀行員：「残りの90万円を誰かに貸そう」
 Bさん：「貸してください」
 銀行員：「貸します。ただし、すぐには必要ないと思うので、Bさんの口座に90万円振り込んでおき、現金はまた、手元に預かっておきますね」
 日銀：「一応そのうちの10%を日銀へ預けなさい」→これを繰り返す。

この際、以下の内容の質問が予想される。

①「お金を預けた人が何かモノを買いたい場合は現金を引き出す必要があるのではないですか？」

【回答】もちろん現金を引出しても良いですが、そんなことをしなくても、取引する両者の預金口座を銀行員が増減させれば、現金自体が必要ありません。

②「もしも、預金者全員が銀行から現金を引き出そうとしたらどうなるのですか？」

【回答】実は、銀行は全ての預金を現金にして返すことは不可能です。そんなに現金を持っていません。場合によっては、日本銀行から現金を調達するなど

してどうにかしようとしています。

このロールプレイを通して、実際の現金は100万円しかないはずが、預金額がどんどん膨らんでいくイメージを持たせる。また、入試に必要な生徒達には、教科書通りの計算で、本源的預金÷支払準備率＝預金合計、預金合計－本源的預金＝信用創造額なので100万円÷0.1(10%)＝1,000万円、1,000万円－100万円＝900万円分の信用創造となる点も触れておく。

さらに、教科書の説明はイメージしやすい利点がある一方で、やはり現金がなくても銀行は融資を行う点を強調するために、以下のようなロールプレイを行う。

ロールプレイ② より現実に近い信用創造

Aさん：「100万円を銀行に預けます」→銀行員は100万円を受けとり、Aさんに預金口座100万円と書いた紙を渡す。

銀行員：「この100万円を日本銀行に預けたら、より多くの人にお金を貸し出すことができるぞ。計算では、これで、あと900万円分誰かに貸すことが可能だ」

発問6「もしも現在のように景気が悪い時には、銀行員はどうするか？」景気が悪ければ、取引先が潰れてしまうのではないかと相手を信用できず融資をしない。すると、より景気が悪くなり、銀行員はより企業を信用できなくなってしまう。するとよりお金を貸さない。このような負の連鎖としての信用収縮の状態を理解させ、人々が互いに信用できるような社会の仕組みや政策が形成されていくことの重要性を強調し、次回の金融政策の授業へとつなげる。

5. 最後に

冒頭でも述べたように、金融教育の重要性は、多くの場で認識され、様々な取り組みが行われている。これも、社会の変化に生徒たちが適用できるようにするためだといえるだろう。もちろん、公民科の教員もそのような変化をきちんと生徒に教える必要がある。しかしながら、公民科の教員に求められている最も重要な役割とは、より本質的な「そもそも論」を教えることではないかと最後に提起したい。

(参考)日本銀行ホームページ <http://www.boj.or.jp/>

発行所 数研出版株式会社

<http://www.chart.co.jp>

頒価50円

東京本社 ● 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2丁目3番地3

(年2回発行)

関西本社 ● 〒604-0867 京都市中京区烏丸九太町西入ル

TEL.(077)552-7500(コールセンター)

2013年11月 発行



本書は植物油インクを使用しています。